

新「共通特論 I」：臨床腫瘍学総論 放射線治療の考え方と最近の進歩

講義日：2023年5月27日（土）

講師：澁谷 景子（大阪公立大学 大学院医学研究科 臨床医科学専攻 教授）

要旨

放射線治療は、手術、薬物療法と並び、がん治療の3本柱のひとつである。放射線治療の特徴として、根治、生存期間の延長、症状緩和、QOLの向上など、症例ごとの状況、病勢に応じて幅広く対応可能であること、臓器の形態や機能を温存できること、全身への影響が少なく、高齢者や合併症により手術不能と判断される場合であっても適応となり得ること、などが挙げられる。また、近年、強度変調放射線治療（IMRT）、強度変調回転放射線治療（VMAT）や定位放射線照射（SRT/SRS）、画像誘導放射線治療（IGRT）といった高精度放射線治療と呼ばれる先進的な照射技術が開発され、一般臨床として広く普及しつつある。これらの新たな技術により、放射線治療は通院加療可能な低侵襲がん治療として、或いは集学的治療の一環として、高齢者にも就労者世代にも今後一層、需要の増大が予想される。